

昭和の音楽
～レコードのある生活～



はじめに

レコードは、カセットやCDが誕生するまで音楽を再生する最も一般的な道具でした。レコードの普及によって、家庭内でも音楽や音声の記録を聴くことが身近になりました。当博物館が所蔵する昭和時代の資料の中にも、膨大な数のレコードが含まれています。本展示では、四つの家庭から寄贈されたレコードを家庭ごとに抜粋して紹介します。それぞれの家庭がレコードのある生活をどのように楽しんでいたのか、想像を巡らせながらご覧ください。

レコードの仕組みと種類

丸いレコード盤の表面には、音の振動を記録した溝が刻まれています。この溝に、レコードプレイヤーに取り付けられた針を落として回転させ、振動を電気信号に変換することで音声として再生します。

【レコードの種類】

- ・ **SP盤**：直径10インチ、78回転/分。戦後間もない時期までは標準的な規格とされた
- ・ **EP盤**：直径7インチ。45回転/分で、シングルサイズの楽曲などを収録した
- ・ **LP盤**：直径12インチ。33回転/分で、アルバムなどを収録した

※ソノシート：塩化ビニールなどで作られた柔らかく薄いレコード。雑誌の付録などで用いられた。



↑左からLP盤、SP盤、EP盤



↑ソノシート

レコードの再生と保管

リオノコーダー

レコードを収納し、運搬することができるケースです。中にはレコードが32枚収納されており、展示のように開いて中身を取り出すことができます。変形や変色、破損があることから、かなり年季が入っていることが見て取れます。ケースと中身のレコードを合わせるとかなりの重量があります。



レコードケース

医療機器メーカー「リオン社」が開発したレコードプレーヤー付き録音機です。レコードの再生だけでなく録音機能も兼ね備えており、録音はマイク入力とライン入力の双方が可能でした。携帯することができ、こちらの資料は南山大学の外国語学部の授業で実際に使用されていました。



レコードの紹介



柴山家

展示した南野陽子さんのレコードは未開封ですが、開封済みの全く同じレコードも当館に寄贈されています。観賞用と再生用を揃えていたと考えられます。



津田家

雑誌やおもちゃの付録に使われたソノシートを多く所有していたようです。家族の中にコレクターの人がいたのかもしれませんが。



大塚家

寄贈された資料はジャンルも種類もバラバラで、音楽以外のレコードまで揃っています。多趣味な人がいたのか、はたまた大家族だったのでしょうか。

家庭によって寄贈されたレコードの種類は様々です。是非、各家庭におけるレコードの在り方を想像してみてください♪